

子どもの豊かな心を育むPTA活動

家庭・学校・地域ぐるみの活動を通して

春日井市立石尾台小学校

1 はじめに

校区は、春日井市の東部にあり、丘陵地を境として岐阜県多治見市と接していて、緑に囲まれた大変環境のよいところである。

本校は、昭和55年に開校し、本年度で37年目を迎える。開校時は、児童数601名、15クラスであった。

高蔵寺ニュータウンの開発にともない

新しく作られた街で、急激に児童数が増加し翌年には1077名、3年目には1318名のマンモス校となり、次の年には押沢台小学校が分離独立した。少子高齢化は本校も例外ではなく、現在は、各学年1クラス、特別支援学級2クラスの計8クラス、全校児童205名、PTA会員数156名となっている。



【校舎全景】

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

共働きの増加、児童数減少によりPTA活動の維持・発展がやや難しい状況になってきている。一方、この地域は春日井市で最も高齢化が進んでいるが、住民の自治意識はとても高く、町内会をはじめとして様々な組織が、多様な取り組みを行っている。学校にもたいへん協力的で、下校見守り隊、読み聞かせ等のボランティアの方々があり、保護者・地域の方々が協力して学校を支えている。本校では、こうした方々を学校応援団と呼び、地域コーディネーターを委嘱し、活動をまとめていただいている。例えば、授業やクラブ活動をサポートしてくださるゲストティーチャーを集めていただいたり、たよりを発行して活動の様子を紹介したりするなど、献身的に活動して下さっている。

そこで、今年度は、家庭・学校・地域ぐるみの子育てにより、子どもの豊かな心を育むPTA活動を目指すことを今年度のPTA活動方針とした。

学校応援団	内 容	メンバー
下校見守り隊	登校・下校時に街角に立ち毎日の見守り	地域
ゲストティーチャー	クラブ活動での指導実績のある方 年10回9名	地域・保護者
畑の先生	畑の管理・児童・教師への指導	地域
花壇整備	花壇を分担し、管理	地域
図書室整備	低学年の図書室の掲示物の作成・本の修理	地域・保護者
読み聞かせ	業前の各教室と20分放課の図書室での読み聞かせ	地域・保護者
おやじの会	年5回の行事の企画・運営	保護者とOB
緑のボランティア	地域の公園・地区の植物を管理して見える方 年3回	地域
ベルマーク	ベルマークの月1回の整理と発送	地域・保護者

(2) PTAの組織

役員会	学級委員（各学年3名）				地区委員会
会長1名 副会長2名 書記3名（内教員1名） 会計3名（内教員1名）	母親委員会 副会長（1名） 学級委員 （5名）	広報部 学級委員 （4名）	文化部 学級委員 （5名）	ふれあい部 会計（1名） 学級委員 （4名）	各地区で 選出（6名）

慣例的に会長のみ2年間の任期で、あとは毎年交代していて、ほとんどの保護者は児童の卒業までに役員・委員になって参加している。毎年役員・委員が交代するので、各部ごとに、詳しいマニュアルが作成され、毎年見直され引き継がれている。

3 実践活動の概要

(1) 安全・安心への取組

児童が、安心して学校へ登校するということが、学校での活動のベースになる。学校の安全についての支援は大切な取り組みだと考える。

① 給食試食会

文化部・ふれあい部が企画・運営を行う。全保護者から参加者を募り、栄養教諭の給食・食育に関する講話を聞いた後、試食、給食参観を行う。給食への理解が深まり、家庭での食事についても考えるきっかけとなっている。

② あいさつ運動

役員が参加、児童会役員とともに5月に1週間行われる。児童会役員はたすきをかけ大きな声であいさつを交わしている。人とのつながりはあいさつから始まる。笑顔であいさつできることを一日の始まりとしたい。

「下校見守り隊」の方々とは毎朝出会うことになる。「おはようございます」と児童の声が街角で聞こえる。下校見守り隊の方々には登下校中のトラブルに対応していただくこともある。このような交流によって児童は安心して、登下校をすることができる。

③ 石尾台祭り

石尾台町内会協議会が主催となり夏休みに入った7月に盛大に催される。そこには児童が多く参加している。そこで、地区委員は児童の安全のために「愛のパトロール」を行っている。また、児童の地域参加として5年生が有志として参加し、今年度は、トーチトワリングを舞台上で披露した。

④ 防災についての親子ふれあい会

大きな地震が起きた時、自分の身をどう守るかについて学習した後、家族の待ち合わせ場所、防災用品、連絡方法について親子で話し合った。

- 【感想】○ 災害の時の話を親子できちんとしたことがなかったのでとても良い時間でした。
○ 子どもとともに防災について今後も話し合っていきたい。



【防災についての親子ふれあい会】

(2) 環境支援

児童が落ち着いて学習に集中して取り組めるように学習環境をよりよくしていきたい。

① 親子除草

自然環境が豊かなだけに、各教室に網戸がしてあるのだが、蜂などの昆虫が校舎に侵入してくることがたびたびある。巣を作られないためにも植物の管理はしっかり行わなくてはならない。

親子除草は、朝、暑くなる前に行われている。親子で行うことによって楽しく行うことができている。

この他に緑のボランティアの方により、年3回草刈りや低木の剪定が行われている。何十人の方が参加し、普段なかなかできないようなところまで、きれいにしている。

また、花壇整備の方々が、数人に別れ、分担を決め年中整備をしていただいているので、花壇はとても美しい状態が保たれている。

② 資源回収

年に4回地区委員が中心となり地域の方の協力を得て行っている。校区全体に及ぶため、児童も一緒に手伝う。親子がそろって、一生懸命活動する機会として重要である。また、ごみの分別意識、資源を大切にしようとする意欲を高めるためにも重要である。アルミ缶については、地域の方の持ち込みを年間通じて行っている。

③ ベルマーク

保護者と地域のボランティアによって月1回ベルマークの整理を行っている。各教室に集まったベルマークを委員会の児童が集め放課後はその手伝いもしている。

④ 図書室整備

保護者と地域のボランティアによって低学年図書室の掲示板の作成、本の修理、配架など本と親しむ環境を創り出す活動を行っている。掲示板づくりには、児童も手伝っている。



【図書室整備】

(3) 豊かな心を育む支援

児童が「学校へ行きたい」と思えるようにするためには行事が必要である。様々な行事が企画され、学校というのは楽しいところだと児童に感じさせたい。そして、様々な活動を通して豊かな心を育みたい。

① 運動会

運動会では、体育振興会主催の種目に、パン食い競争、幼児かけっこなどがある。打ち合わせ、前日当日の準備・運営等PTAはその行事への協力をしている。特にパン食い競争では700名の参加があり盛況に行われる。



【パン食い競争】

② おやじの会

年5回程度行事を開催している。例えばこの2年間ではハイキング、キックベース、ペットボトルロケットコンテスト、きもだめし、カヌー体験、餅つきなど様々な親と子が参加し、共に楽しめる企画を行ってきた。



【カヌー体験】

③ グランドゴルフ大会

地区社会福祉協議会主催の子ども・親・祖父母の交流場、地域活性の場として行われている三世代交流事業に文化部が参加し前日準備や開催の手伝いを行っている。

この他にも、地域行事へ1年生の未就学児支援の「タンポポ広場」、2年生の「長寿の祝い」の参加がある。また3年生の地域の人たちから、昔の暮らし・遊びについて学んでいる。

④ 読み聞かせ

本校の読み聞かせのボランティアには、2グループあり、一つは地域の方の20分放課の読み聞かせで、全校に呼びかけを行っている。参加する児童は低学年中心で、紙芝居、エプロンシアターなどいろいろと工夫されている。もう一つは、業前に学級に入って行っている。このグループは読書集会にプロジェクターで絵を映し、ピアノやバイオリンで生の演奏をしながら朗読を行っている。



【読書集会】

⑤ 文化の集い

年に一度、劇団や音楽家を呼んで鑑賞する会である。児童数が少なくなっている本校ではこのような行事を行うことは金銭的に難しくなっている。そこで、PTAや町内からの補助を受けて開催されている。そして、文化部が受付、進行などを行っている。また、地域の方にも回覧板を通じてお知らせし参加してもらっている。

4 おわりに

これまで挙げてきた事柄以外に、クラブ活動や畑の先生などの地域の方々から、児童は直接学んできている。実にたくさんの地域の方々が児童と関わっていただいていることに今さらながらに驚いている。高齢化が進む本校区の実情から、このような世代間交流により高齢者と児童が顔見知りになることになり、高齢者の生きがいにつながり、さらには、高齢者の活用・地域全体で子育て支援、児童の社会性を育むことにつながってくると考える。

また、PTA会員、児童の減少への対応にも有効だと考える。学校、保護者、地域が様々な場面に有機的に深く結びつくことによって、いわゆるWIN-WINの関係となることを、今後とも模索していかなければならないと考える。